

宮崎県の発生農場（2例目）にかかる疫学調査チームの調査概要  
（平成26年12月29日実施）

平成26年12月29日に実施した現地調査の結果、以下のことを確認した。

1 発生農場の周辺環境

- ① 発生農場は、丘陵地に位置し、周囲に茶畑及び雑木林がある。
- ② 発生農場は、肉用鶏農場で、4棟の開放型の鶏舎があり、発生時点で約30日齢の鶏が42,000羽飼養されていた。
- ③ 発生鶏舎（4号鶏舎）は、農場入口から向かって左側奥に位置していた。
- ④ 農場から1.5キロメートル程度の距離に高岡ダムがあり、調査時には、同ダムには、少数のカモ類が確認された。

2 管理者及び従業員

- ① 農場主によると、農場及び鶏舎への出入りに当たり、それぞれ、長靴を交換するとともに、踏み込み消毒槽を用いた長靴の消毒を実施している。
- ② 発生農場は、農場主及びその家族の2名により管理されており、両者とも、最近の海外への渡航歴はない。

3 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横に飼料タンクが設置されているが、タンク上部に蓋がなされており、野鳥の接触の可能性や、糞の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 給与水は、上水が鶏舎横のタンクに貯水され、鶏舎内に配水されている。給与水のラインは外部との接触はない構造であった。
- ③ 車両の農場への出入りに当たっては、車両用タイヤ消毒槽によるタイヤ消毒及び動力噴霧による消毒が実施されていた。
- ④ 農場主によると、消石灰は、特に冬季において、3・4日おきに、鶏舎周辺、通路等に散布している（降雨翌日はすぐに散布するとのこと）。
- ⑤ 農場主によると、鶏糞は、オールアウト時に搬出されており、最近では11月上旬に実施している。

4 野鳥・獣害対策

- ① 各鶏舎とも、鶏舎の南側では、外側から順に、防鳥ネット、透明のビニールシート、ロールカーテン、金網（マス目は約2cm）、透明のビニールシートが設置され、北側では、外側から順に、寒冷紗、ロールカーテン、金網（マス目は約2cm）、透明のビニールシートが設置され、冬期には原則ロールカーテンは降ろされる。
- ② 鶏舎の金網の一部に小さな破損があったが、上記対策が実施されており、野鳥等の侵入防止の工夫がなされていた。
- ③ 鶏舎の排気用ファンのシャッターが固定されており、ファン停止時も開放されていた。しかしながら、現地調査時点において、小動物等の侵入の形跡は確認されなかった。
- ④ 各鶏舎の出入口の扉に、破損等は確認されなかった。
- ⑤ 農場主によると、各鶏舎内で野鳥を見かけたことはない。
- ⑥ 農場主によると、ネズミの対策として、鶏舎内に殺鼠剤を設置しており、各鶏舎内でネズミの糞や姿を見かけたことはない。

5 死亡鶏の取扱い

農場主によると、通常、死亡鶏は、ひなについては農場内の焼却炉、成長すると消毒し、箱に入れ、シートを被せ消毒した上で、農場近くの自宅に持ち帰り、そこから専門の業者に引き渡す（自宅でも消石灰の散布、死亡鶏運搬車両への動力噴霧による消毒が行われている）ことにより行っている。